

平成 21 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名：株式会社ハウスフリーダム  
(コード：8996 福証 Q-Board)  
代表者名：代表取締役社長 小 島 賢 二  
問合せ先：取締役副社長 森 光 哲 也  
(T E L：072-336-0503)

### 業績・配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 20 年 12 月期通期（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）の連結及び個別業績の予想及び 1 株当たり期末配当金について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 20 年 12 月期 通期業績予想（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

##### (1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	6,100	94	74	68
今回修正予想(B)	5,819	64	44	33
増減額(B-A)	△281	△30	△30	△35
増減率(%)	△4.6	△31.9	△40.5	△51.5

##### (2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,705	29	9	3
今回修正予想(B)	5,383	△25	△44	△53
増減額(B-A)	△322	△54	△53	△56
増減率(%)	△5.6	-	-	-

#### 2. 配当予想の修正

	1 株当たり配当金		
	中間期末	期 末	年 間
前回発表予想	—	40 円 00 銭	40 円 00 銭
今回修正予想	—	—	—

### 3. 業績修正の理由

当社グループの当連結会計期間における業績は、サブプライムローン問題に端を発した世界的な景気後退の影響により、住宅購入者の意欲の急速な変化と、不動産市場での在庫水準の高まりからおこる価格競争等によって収益を大きく低下させる状況になりました。

一変した不動産業界の資金調達環境に迅速に対応すべく、財務体質の強化を最優先課題として、販売在庫物件の早期圧縮に注力し、新築戸建分譲事業優先の販売推進に集中いたしました。

その結果、上記の販売促進施策の反動で高粗利益率の不動産仲介収益が低下し、また、在庫の早期処分にあたり行った値引きの影響から、予想しておりました利益水準を確保することができませんでした。平行して取り組みました販売費及び一般管理費の削減につきましては、前年同期比で18.7%の減少となりましたが、利益の落ち込み分を吸収するには至りませんでした。

また、早期在庫処分の成果として、それに伴う借入金の圧縮（短期借入金の前年同期比20.3億円減少（85.3%減）等）により、自己資本比率も大幅に改善し、最重要かつ最優先としておりました健全な財務体質については確保することができました。

このような状況のもと通期業績の予想数値につきましては、上記のとおり修正をいたします。なお、配当金につきましては、株主の皆様への安定的な利益還元を経営上の重要課題と位置づけており、業績動向を勘案して決定しております。現状の事業環境を総合的に考慮し、財務体質の強化と機動的な事業展開を図るため、誠に遺憾ながら平成20年12月期の利益配当につきましては見送らせていただく予定でございます。

以 上

※上記に記載しました予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、様々な不確定要素によって実際の業績は異なる可能性があります。